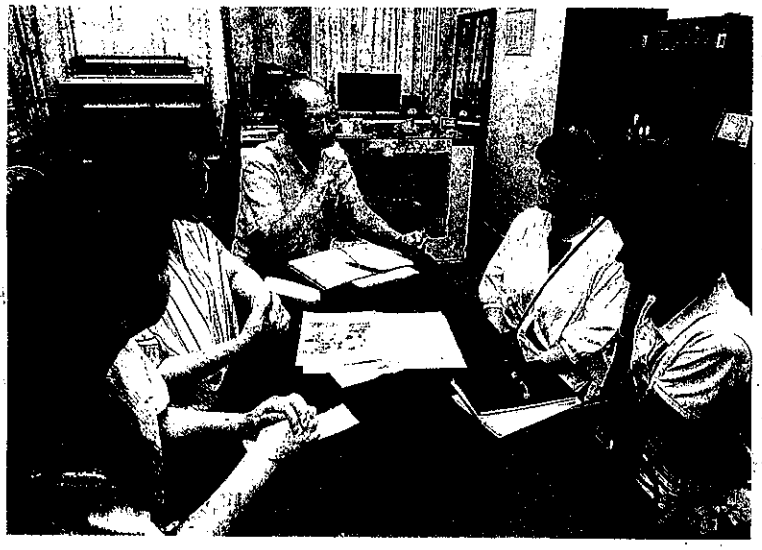
発達障害などで特別支援教育のニーズがある中学生の進路選択に役立ててもらう交流学習会「春15（はるいちご）の会」が8月23日、備前市の日生中で開かれる。特別支援学級などがない高校のサポートに不安を持つ保護者の声を受け2015年から開催。新型コロナウイルス禍で中止した年もあるが、10年間で参加者は増え、今回は岡山県内の全日制、通信制高校、サポート校など過去最多の24校・団体が集まる。（阿部光希）

## 来月備前　支援必要な生徒、家族と教員の交流会

# 15歳の春へ 一人一人に合う進路を



「春15の会」開催に向け実行委のメンバーらと話す久次さん（中央）＝赤磐市内

学習会は日生中教頭の久次博文さん(57)が長船中（瀬戸内市）で特別支援学級の担任をしていた15年7月「どの高校が子どもに合うのか分からない」という保護者の声を聞き、高校2校を招き開催。年々、参加者は増え、19年は岡山県内全域から92人・13校が集まった。

20年はコロナ禍で中止。21年の再開に向け久次さんの勤務校があった赤磐市と市の自立支援協議会が入って実行委員会を作り、名称も「15歳の春を支援する」との意味を込め「春15の会」とした。コロナの感染拡大で会場が使えなくなり、各校に動画を作ってもらいユーチューブで配信、200人が視聴した。

中学2年の長男が自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠陥多動性障害（ADHD）がある柔道整復師額田尚美さん(41)＝赤磐市桜が丘東＝は「高校は特別支援学校しか選択肢がないかなと漠然と思っていた」と言うが、動画を見て「認知機能や対人スキルを伸ばすトレーニングをしている高校があるのが分かった」と話す。

## 県内高校やサポート校　24校・団体参加、動画配信も

対面での交流会は22年以降もコロナや台風で中止や規模縮小を余儀なくされてきたが、今年は実行委と赤磐、瀬戸内、備前市、和気町と東備地域自立支援協議会の共催で、参加人数を絞らず、各校の動画配信も行う。

久次さんは「発達特性は子どもによってさまざま。学校にも保護者の声を多く聞いてもらい、受け入れに向けて理解が深まることを期待したい」と話す。

23日は午後0時半から参加校の教員らによる座談会後、各校・団体がブースを設ける。動画配信（8月8日～11月28日）の視聴も含め、東備地域自立支援協議会のホームページ内にあるチラシのQRコードから申し込む。問い合わせは久次さん（090－7596－9656）。